

スズキ
鈴木 あるの 教授

工学部 建築デザイン学科

研究業績等

【所属学会】

- ・2008/04～日本建築学会
- ・2011/04～日本民俗建築学会
- ・2018/04～全国重文民家の集い

【著書】

- ・著書「東京の建築家とつくる家」[コラム「外国人の家にもつわる都市伝説」] (建築ジャーナル) 2023/02
- ・著書「和室礼讃」[「畳む」および「整える」の章] (晶文社) 2022/12
- ・著書「あこがれの住まいとカタチ」[「外国人と和室」の章] (住総研住まいの読本シリーズ、建築資料研究社) 2022/12

【論文】

- ・学術論文「Mixed Lifestyles in South African Townships: Interviews and Participant Observation in the Greater Cape Town Area」UIA 2021 RIO: 27th World Congress of Architects: International Proceedings ACSA 1 (2): 669-675 (単著): 2021/07
- ・学術論文「Foreigners' Roles in Preserving Historical Houses: A Case Study in a Rural Town in Japan」UIA 2021 RIO: 27th World Congress of Architects: International Proceedings ACSA 1 (1): 570-576 (単著): 2021/07
- ・学術論文「Opportunities, Obstacles and Possibilities for Foreigners to Study Traditional Japanese Gardening」Intercultural Understanding Vo.5:pp.21-27 (単著): 2015/09 他、多数

【その他(書評等)】

- ・書評 Book Review: Japanese Garden and the West by Christian Tagold Japan review : Journal of the International Research Center for Japanese Studies (32) :pp.230-232 (単著): 2018/11
- ・その他(解説・一般記事) 外国人の日本の住環境への適応プロセス 建築ジャーナル 建築ジャーナル社 2020 (11) :26-29 (単著): 2020/11
- ・その他(解説・一般記事) 留学生の住まいにおける変化と格差 建築雑誌 日本建築学会 第134巻 (1730号) :p.22-24 (単著): 2019/11

【学会発表】

- ・Tatami mats and other organic housing materials misused by Japanese people (British Association of Japanese Studies Conference 2018: Crisis? What Crisis? Continuity, and Change in Japan) : 2018/09
- ・Materiality and religion in Japanese gardens (Association for the study of religion in southern Africa 2018: Religion and materiality) : 2018/08
- ・Disappearing Japanese houses: their contribution to protect the environment (International & Transdisciplinary Symposium on Advanced Future Studies) : 2017/02

【講師・講演】

- ・外国人から見た「和」の住まい(東京): 2021/07
- ・Educational Experiments in California: Revisiting the Meaning of Japanese Gardens (Kyoto) : 2002/09
- ・How traditional Japanese houses contributed to preserve natural resources and protect the environment? (Kyoto) : 2017/02

【科研費・外部資金等】

- ・外国人にとっての和室: 「あこがれ」の合理性と実用性 (主査) その他の補助金・助成金: 2020/07～
- ・多文化共生のデザイナー-外国人の日本の住環境への適応プロセスの研究 (代表) 基盤研究 (C) : 2014/04～2018/03
- ・多文化共生のデザイン: 国際教育時代における留学生宿舎の建築学的研究 (代表) 基盤研究 (C) : 2010/04～2013/03

キーワード

国際教育 日本建築 日本庭園 畳 生活様式 輸出入 ジャポニズム

対応可能なもの | ■講演 ■研修 ■研究相談(学術指導) ■学術調査 ■コメンテーター ■共同研究・受託研究

和室の海外展開と異文化理解

研究の概要

和室が海外で静かに脚光を浴びています。一方、国内では、国産のイグサの畳表が絶滅の危機に瀕しており、伝統的な職人がその腕を振るう機会も激減しているという状況です。そのような中、かつては世界に絶賛された日本の職人技術の維持継承に資するべく、和室の海外ビジネス展開を試行錯誤する事業者達が全国にいらっしゃいます。私は過去30年近くにわたり、居住空間の異文化理解を研究してきました。しかし地域性のある文化の、何をどこまで伝えれば良いのかは、いまだに解明されていない難しいテーマです。本研究においては、海外の方が和室をどのように理解し評価しているのか、その変容と要因をも含め、把握することを目的としています。さらに、価値ある職人技術を守るために最も効果的かつ現実的なビジネス展開とはどのようなものなのかを探っています。



和室の様々な要素

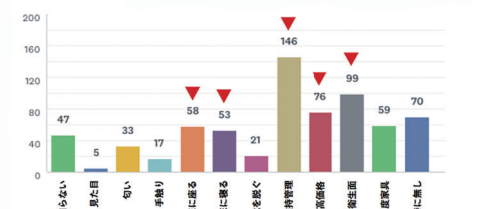
研究の詳細

■研究・技術のプロセス ■研究事例 ■研究成果 ■使用用途・応用例 ■今後の展開

これまで世界各地の住宅を視察し、異なる文化背景を持つ人々が住宅をどのように使っているかを研究してきました。国内においては、留学生宿舎や外国人住宅の居住実態の事例を研究しました。また外国人の職人が日本の伝統的技術習得をめざすプロセスの事例研究なども行ってきました。最近では、外国人を対象に合計1,000名を超える畳と和室に関するアンケート調査 および海外における事例調査を行いました。伝統建築に関わる職人等とも常に情報交換し、また学内でも食分野と音楽分野の教員とともに「海外における日本文化の受容」をテーマとする研究ユニットを立ち上げています。これらの研究の成果は、国内外の学会における講演や論文、そして著作の中で発表しています。



外国人が畳を好きな理由 (複数回答)



外国人が畳を嫌いな理由 (複数回答)

産学官連携先に向けた
アピールポイント

伝統的な生産者や職人に加えて、高い品質を維持しつつ生産力の向上と効率化を目指すための機械や新素材の開発など、新しい業種との連携もしていきたいと考えています。過去20年以上にわたって国際教育市場における日本広報や異文化間教育を行ってきた経験を活かし、日本社会の国際化に寄与する周辺研究の可能性もあります。

ご連絡窓口 京都橘大学リエゾンオフィス(学術振興課) TEL: 075-574-4186 E-mail: aca-ext@tachibana-u.ac.jp